



輝く二万二千の星☆

いの町きらきら人物図鑑②

「奏でる音色は人と人を繋ぐ懸け橋」

三味線・小唄 指導、演奏家 田村 花枝さん

田村花枝さんってどんなひと？

いの町出身（1986年生まれ）。三味線・小唄の演奏家として活動されている花枝さん。ご自身で教室を開かれているほか、伊野南小学校クラブ活動講師や伊野商業高校外部講師を務めるなど、いの町の教育にも携わっていらっしゃいます。また、昨年7月にはなんと、小唄の全国イベントで最高賞を受賞されました。

今回はそんな花枝さんにこれまでの道のりや、講師として関わる子どもたちへの思い、今後の展望について伺いました。

三味線を始めたきっかけ

「兄が2人いて、子どものときは（花枝さんが）『三男坊』と言われるくらい活発な子だった」そうですが、幼い頃からご両親に「日本文化を身に着け、世界に発信できる人に」と言われて育ち、茶道や日本舞踊を習っていたという花枝さん。

それらを通して三味線に興味を持ち、始めたのは中学2年生の頃。そして高校卒業後は大阪で修業をし、22歳で師範に。

プロとして思い悩む日々・・・

これまでの道のりは決して順調なばかりではなく、迷い悩んだことも多かったそう。大阪での修行中、三味線を辞めて逃げ出したくなり「物価が安くて暖かい国へ」とタイへ“逃亡”。帰ってきて三味線を再開するも、28歳のときに再び迷いが。「このまま私は三味線ばかりで本当によいのか・・・。20代の貴重な時間を使って長期で海外の文化に触れてみたい」という思いから、思い切ってアメリカのディズニーワールドで1年間寿司職人として勤務。

そしてこの三味線から離れるという経験が、実は田村さんの三味線への思いを変える大きなきっかけに。

「アメリカにいる間、三味線を教えてほしいと言われたり、イベントで演奏する機会を頂けたり。『一つのことをずっと続けているのはすごいこ

とだ』と言われることが多くあり、改めて自分自身を見直すことができた。これまで、三味線の道は決まったテンプレートしかないと思い込んでいたけれど、自分がやりたい道に三味線を携えて歩いていくことができるのだと気が付きました。」

これからの展望と、メッセージ

「離れても、やっぱり三味線に引き戻されるんです。」と、迷いのない笑顔がきらきらの花枝さん。これからの目標を伺うと、「三味線がなかったら出会うはずのなかった人たちに会い、そこから学ぶことがある。国内外で文化の懸け橋になりたいですね。」と、まさに、様々な葛藤を乗り越えた花枝さんだからこそこの道。また、子どもたちとはクラブ活動などを通して関わる機会も多く、三味線を教えるだけではない思いが詰まっている。「世界は広くて、いろいろな人がいて、文化がある。まず自分の住んでいるところの文化やルーツを深く掘り下げて知ってほしい。そうすることで、文化の違いや共通点を見つけることができる。自分の人生はいの町の風土があってこそ。美しい仁淀川があり、古くからの紙文化がある素晴らしい町です。」と語ってくれました。



▲伊野南小学校での三味線クラブの様子

教室に関するお問い合わせはコチラ

田村花枝

Tel : 090-9771-1545

info@hanaetamura.com

https://www.hanae-chiritote.com/



情報発信プロジェクトチーム
Instagramで
いの町の情報を発信中！

